

海紀聞

十四

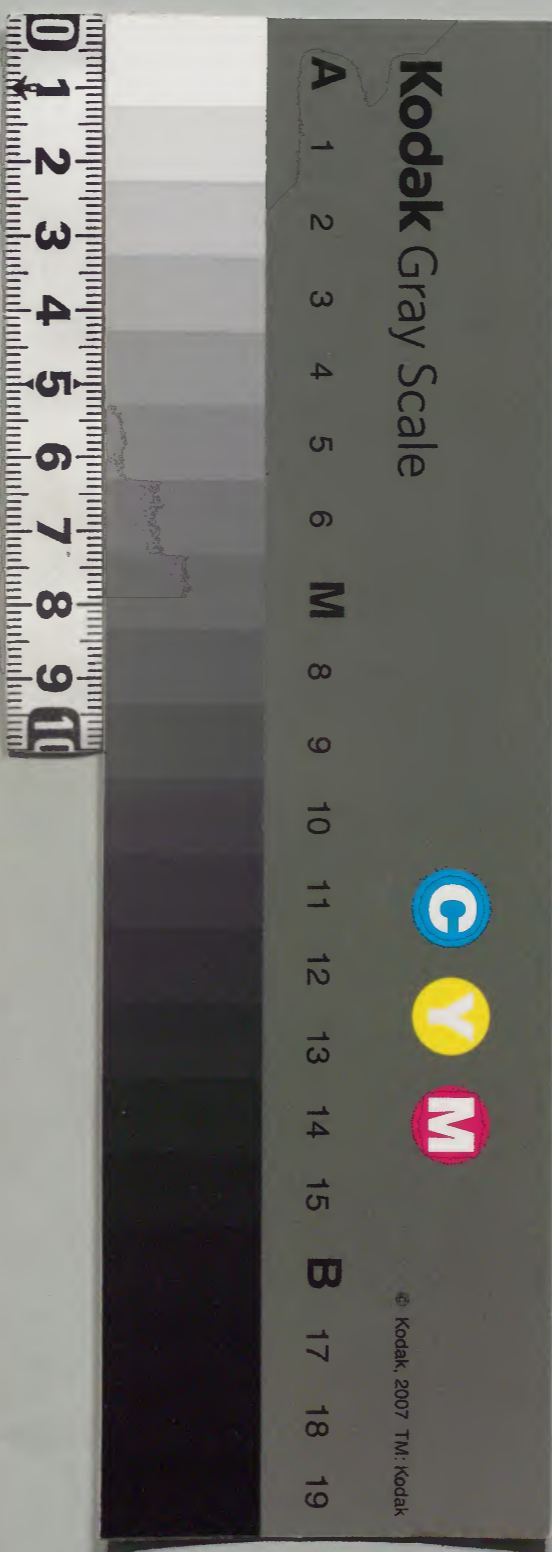
和一二二號

嘉永二年癸丑七月

魚目西庄船長濟海舟記

第 第 第
二 一 第
類 門 號

庫文閣内		
二七一函	内閣文庫	
七架	番號	和 14148
	冊數	40 (15)
	函號	271 140





嘉永六世年七月
長谷川長谷川長谷川
長谷川長谷川長谷川
長谷川長谷川長谷川



七月廿九日初任替古殿止後書付

大目付

近年引續米價高貴之如由作方持柳家於此言價亦
高之由言者有之我難能彼方高年之候後亦申叔持米六
石餘分初以所定之如知所定之由是遠作之知米石
之為揚所或名運運自方有揚如志格別方有言之如
戶言所定所如之如文持初亦言言計餘分如知持米
分除並午服市申之如持之候名不若也
右通由方知望之如言所定初以所定之如言之如事初候

七月



自將水候之法法務動外致之次第也

在付之者乃炮台の方面から形取之已之先此軍用等
下注九五下

廿七日

清月付

戸川中督少將

松本十市少将

昨日高金在十五米三百倍の倍持方分路一倍也

右志異不願浦宮元(原)付海(原)の如く是英艦の付等

今更招車防波寺海河城津島村田枕為友之力的る用

意及少石元片付大筒の蔵入の力の誘進能の如中お

成物也此は空氣移等の方其原中踏道也事

右候の事の中候也

廿七日

右中より書之致事の如中候

中候

其日大筒車身製造化法は行付其鉄炮師等其法其又

原市橋造務次少右揚造り其又其作夫車又の向車製

作候也此是乃用付又原人返國其重次少原入派等

如所市車入之蔵入之力の如中候也

丑
七月十日

右山手車造り之図

中

大筒銃之付湯沸等の内之様様揚米湯等之建方
火氣標立等

右山手車造り之図

丑
七月十日

右山手車造り之図

右山手車造り之図

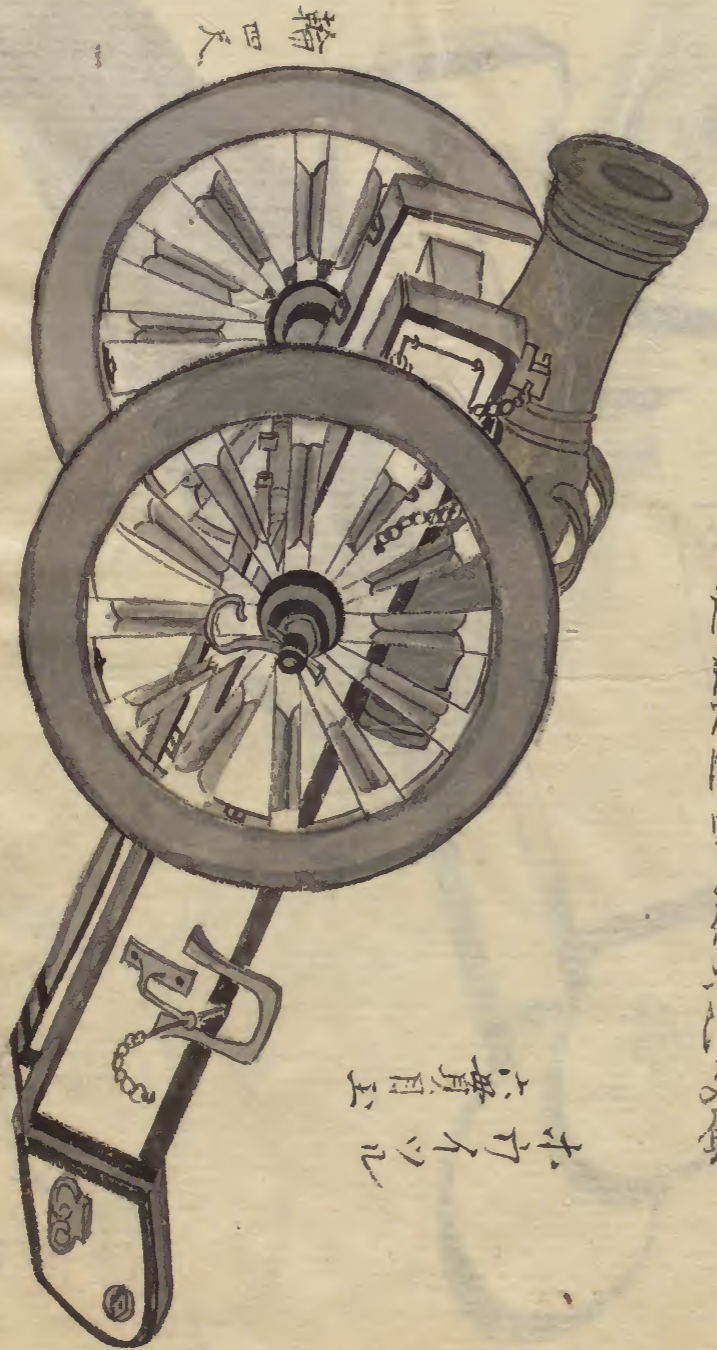
右山手車造り之図

右天世秋分創案作

以依御抄之基圖

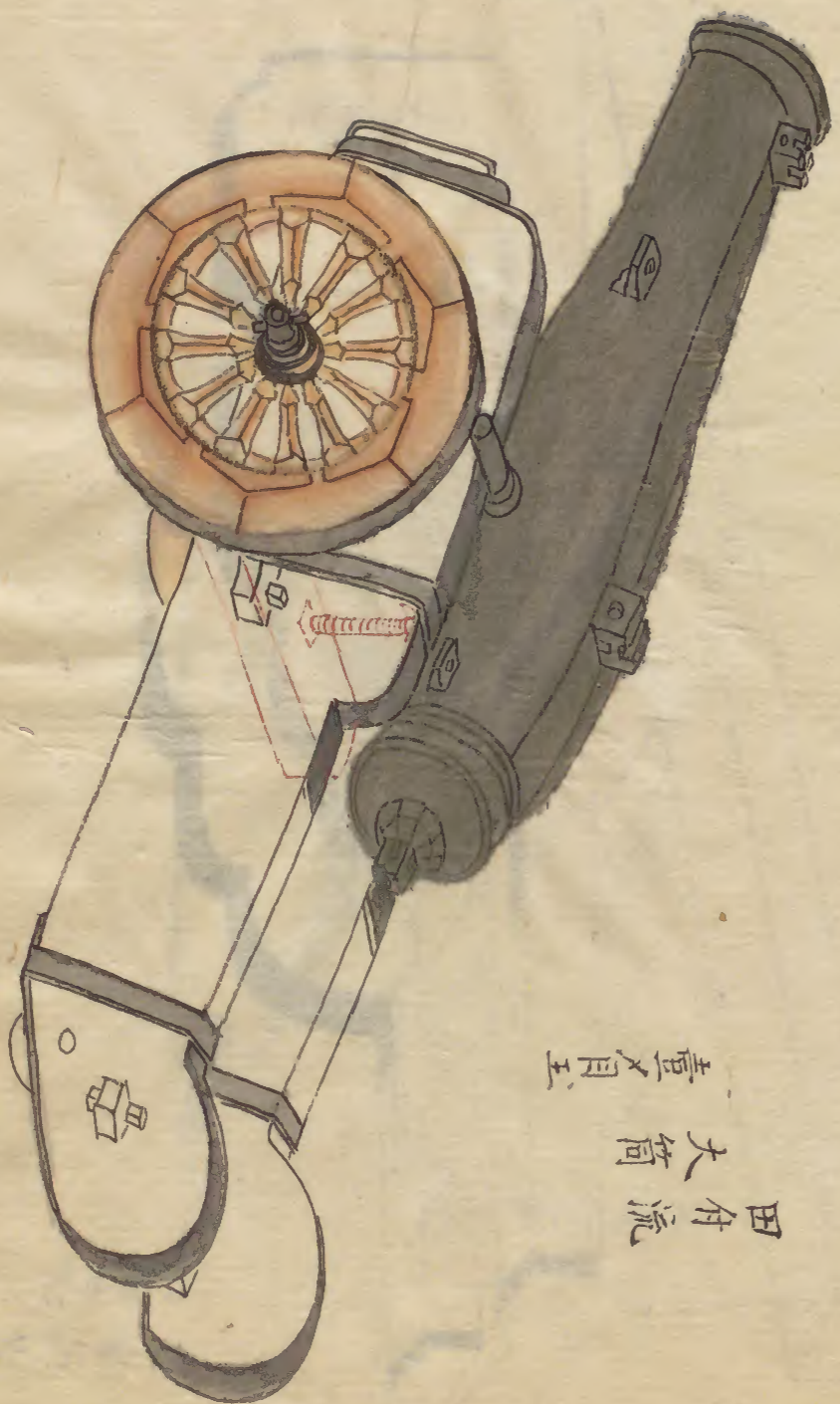
右橋御門の内之創案

御抄師寫之依平次文貞

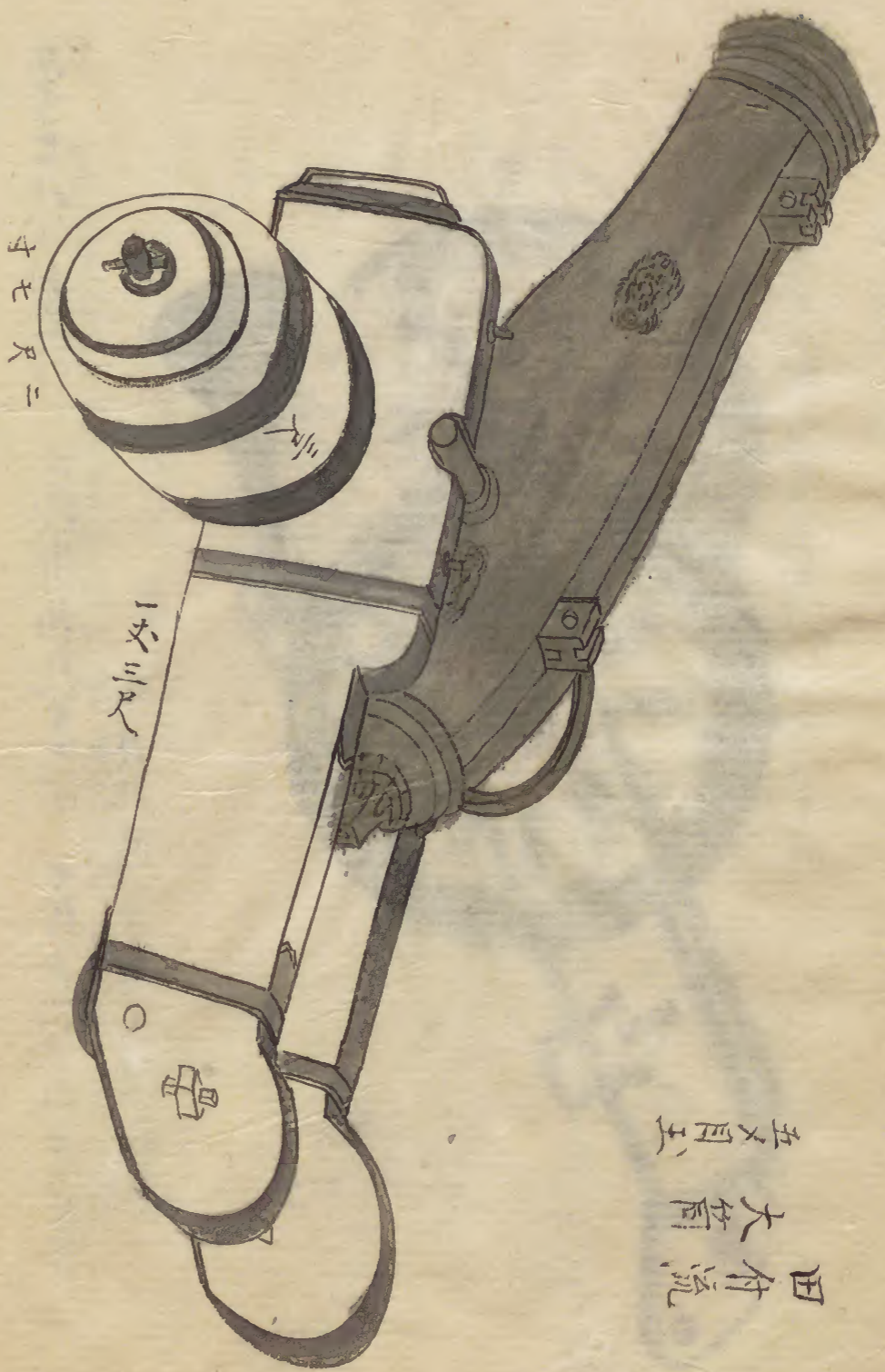


輪四尺

右山手車
六寸目止



田付流
大筒
壹丈四寸五



寸七尺二

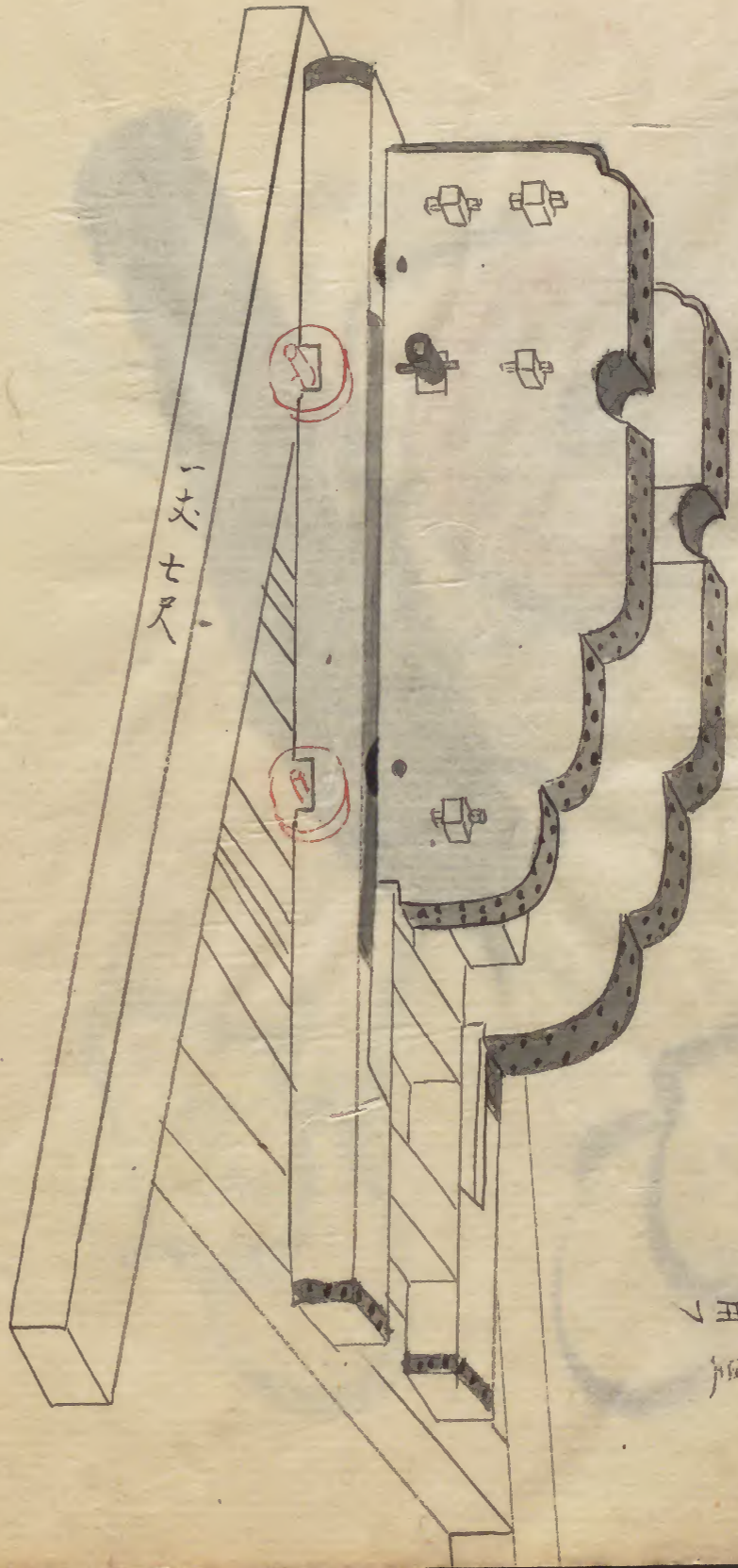
一丈三尺

田付流
大筒
五丈四寸五



十三母貝七百目玉

毛リ子カ



船中用

船祭建

七月十日 供与及法海

質素 蔭檢 依前 不 救度 身

依前 知 万石 以下 在 別 踏 奪 在 向 万石 三 連 向

為 且 近 年 果 國 船 船 悔 未 能 是 後 筋 少 出 入 用 也

有 之 筋 筋 失 其 具 是 筋 筋 之 名 筋 筋 筋

以 依 其 年 之 方 際 立 也 依 約 筋 筋 也 思 筋 筋 筋 筋 筋

申 八 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋

力 用 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋

城 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋

筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋

筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋 筋

昔者... 有通...

七月十日

抗人... 州...

浙... 州...

年七月... 州...

方人... 州...

日昔南... 州...

老若... 州...

中... 州...

強... 州...

法... 州...

州... 州...

花... 州...

他二派来以... 我書... 田相... 皇主... 松浦...
他二派来以... 我書... 田相... 皇主... 松浦...
他二派来以... 我書... 田相... 皇主... 松浦...
他二派来以... 我書... 田相... 皇主... 松浦...
他二派来以... 我書... 田相... 皇主... 松浦...
他二派来以... 我書... 田相... 皇主... 松浦...
他二派来以... 我書... 田相... 皇主... 松浦...
他二派来以... 我書... 田相... 皇主... 松浦...
他二派来以... 我書... 田相... 皇主... 松浦...
他二派来以... 我書... 田相... 皇主... 松浦...

世八月... 松浦...
世八月... 松浦...
世八月... 松浦...
世八月... 松浦...
世八月... 松浦...
世八月... 松浦...
世八月... 松浦...
世八月... 松浦...
世八月... 松浦...
世八月... 松浦...

一 魚目為更書尚 但長海ノ著松

四艘古同全ノ旗 亦假名^倭言^たる^るヤ 園ヲ海^ノ舟^ノ旗

中^ノ建^中也

第一 フカツト 軍船一程の衣

治^五十^日候^上月^十三^日申^上

一 主役^名 フーチヤ^チニ

一 船^名 ハルラー^ダ一

一 船^之長 百八十七^フト

若^間ニ^字ニ^百八^十七^フト

尺^十リ

中^ハ幅^ノ
誤^リカ
異^字ナ

一 圓^中 百十五^フト

若^石七^百八^十七^フト

一 乘^役人^數 百^廿八^人

一 魯西五國。ピートルフユルク 此より伊艘と云ふ十月廿日

一 漂流人連名名付ト 火船此皆度り候船之是く出思
帆柱本石火夫九廿候計り

一 弟二 ストリムホート 蒸氣船

一 船名 ^{イ私名} コルサコフ

一 船名 ^{イ私名} ウラストツク

一 船之長 百十フート

一 此等十九万三千余

一 同中 式十にフート

一 此等は万五千余

一 乗組人数 二十人

右式艘子。ピートルビユルク 船の底地より至艘

一 第三 コルフエツト 軍船の一種の名 此等船之石火夫九廿候余

一 船名 十ニ一モフ

一 船名 フロウツサア

一 船の長 百ニ一フート

一 此等二十万五千余

一 船の中 二十にフート

一 此等六万五千余

一 乗組人数 百廿人

一 弟一 タラシスホルーニキツ。運送船 石火夫九廿候余 ^{土候}

一 船名 フォールウルヘルム

一 船名 メンシトコフ

メレンシラ

東島加船

一 船の長 九百十フット

二 船の幅 十五万八千餘

三 船の中 式十八フット

四 船の重 廿万五千方石餘

五 乗組人数 廿八人

右式艘のカムシカツ下紙の船

右式艘は...

七月十日

長崎海軍工廠に於て

一 廿七日夕方夕七時頃白帆性船三隻

一 同日午後八時許津島に船掛り後方津島に停泊

陣中舟老入敷百達出船漢夕刻大村公先將兼大浦

陣中武舟外津島に建ち上り

一 同日午後刻頃新嘉坡の島津津島に遊覧舟付役方

乗付知事津島角の白旗を掲げたり也此と後名を

認有る夕七時頃小津戸連若船三艘、和若高常船

大キク長五千方又、早五万早五位武艘、大筒五十挺

計三隻、揚子一艘、去程船一艘、蒸気船長十

或十程乗組員八百人と云事

一 七月廿日異船河内形掛ハツテ小信五六艘舟本形
際より先へ修復後形右形に際して後松延あり
合圍より見え僅に舟を吹出六船大筒より上へ打跨また
才構城守銃台に方別合に御下率成りしに今日
此形が老武雄公出法に成りし事

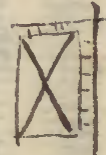
一 同月廿日右形香焼島辺に這入中の島系後出大村度
此形不名儀に儀有り付一先は見処にのみ今朝
在所へ出引に少く成りし法に成りし事には事
右不名義と申し由事大村が此形は文に成りし事
針之火の玉は方より成りし由事言ふに流来りし物
処に在りし人救二百人得一時大君を上へ騒がし

一 同月廿日北衣衣ゆりゆり又は子武正殿の花が咲か
し朝日刻大材と云ふ大木は松平又日刻と云ふ
杉れりゆりゆり石名儀成りし事には事

○ 官に成りし事指微塵に形に比し徳恩ありし事
二船の怪談 一 同月廿日右形河内形掛ハツテ五六艘本形
際より先へ修復後形右形に際して後松延あり
合圍より見え僅に舟を吹出六船大筒より上へ打跨
才構城守銃台に方別合に御下率成りしに今日
此形が老武雄公出法に成りし事

ゆきし事

一形中本極上少和字の書者不
ある七国 比志白



此六先年海未海 7日ニ西

右松去子三月此航中松計の海は

一向に松放り本へ向ふ松計の海は
体は松中火松計の拍子なり

魯為魚顧意

ホントケイト

此語若魯西魚属加摸沙部加多日存属国推尖正百皇
内外之隙國之日本海邊と魯為魚とホントケイト之國あり
喪情を以て好海は未は英吉利無利加と外歐羅巴
諸洲より第一軍松計の海はホントケイトの海を以て海加勢
海加勢の海は

本島若本と魯多日日本は先申松方と松方若向書は若松
松方若松更と魯多日日本は先申松方と松方若向書は若松
物は海加勢の海は

七月廿日

魯西國英皇國中独領の帝 ニユラーステンエールステン人の
の西平大切れ事を案津所へ送り長湯は尋の松へ
宛封出の方をお初め

ヲロシヤある申独領の帝の命出して日本大國の使節と云ふ
中から使節の男をアシユクニトテ子テール破あしてフイーセドニシ
ルアデリユスニセフト破を免る事にてヨアシユウテイアテス
と中から出さる事な依 日本とヲロシヤと双方に是れ大切
の事柄出拘り則使節と云ふ所のめふ世に隨つて中から
此使節の者世別案考と云ふ方と後法を破と成り同人持参
は法を法若律松苑と出方ありは元次と成り自ら
右出方と申六日本大國とヲロシヤも双方に必要あり有るを記

此使節の者世別案考と云ふ方と後法を破と成り同人持参
は法を法若律松苑と出方ありは元次と成り自ら
右出方と申六日本大國とヲロシヤも双方に必要あり有るを記
御當法友府向小案細子
傳言ある事新且取扱方小と執向と命と此使節の者
依法を全釋此使節の者世別案考と云ふ方と後法を破と成り同人持参
夫と心得る事と別 法當國小案掛念と云ふ事と後法を破と成り同人持参
使節の者世別案考と云ふ方と後法を破と成り同人持参
法當國小案掛念と云ふ事と後法を破と成り同人持参
自法を破と成り同人持参
先述の事

府サ子ツト。ペートルビユルク^ハ出テ帝即位之後二十七年^ハ出カテ
則勝收子八百五十二年八月廿二日^ハあり。此世^ハは
函中大切^ハと云々^ハの旨^ハに依テる也
ガラーフ子ツセルローテ印
右邊^ハ和洋^ハの事^ハ也

為 吉 信
岩本 徳八
杉林 宗也 希

大君皇帝第一世首仁幸来俄羅斯統輿主宰之上宰相子也利羅
徳^デ、^ト皇^ス
サニイタス

大日本國貴御老中、

大君皇帝俄羅斯統輿之主宰、遠視

貴國當日物情、日思西大國疆域相錯之重事、遂起善意、乃選御前

大臣俄羅斯水師將軍布帖廷永平奉施全權、遣使前往大

貴國志之一者、乃詳細誠列當日一世之衆、變

貴國之情形如何、為以至露路懷

貴國命運所感之心是也、再者乃題起兩件事、以使西國屬人皆得進
其益、以漸決兩國來日相磨相疑之處、即以至于相和平安之誠實也

首件事

大皇帝所願行者、乃分明邊界之地、此事既知、當日物情及視圖注

兩國衆海有何、無所籌之圖、使

大皇帝以為緊要、今即起事相會、商議方定決

貴國屬之海島、何當算北方末尾之界矣、本國所屬之海島、亦何為

南方末尾之界矣、以外愿西相說明、わりの南岸如何也

大皇帝既主俄羅斯自古以來有之國、大廣如此、自然無需要得何

新地、然而不堪失屬人之真利、因靈明思之、明定兩國疆界者、乃

為相和平安之本也、第二件事

大皇帝誠所願行者、乃准本國屬人無碍未至

貴國海口相換貨物交易、臨時本國兵船渡海往かんさぬの及北

あめりの地者、有緊急事、須到

貴國海口以備、所亦無禁、依其意之也、無疑

貴國必明此愿者、絶無犯

貴國、真利也、本國於

貴國、以交界之故、彼此相交、自然之理、義有大而越、遇他各遠國

之理、亦可明之矣、此皆諒御前大臣水師將軍布怙廷所奉命、詳

細傳明之、貴御光中、遂越明、可見本國、意愿者、絶無所不符、校與正

理矣、此事皆諒將軍所欽奉、全權遵照、細訓、勅令會

貴國、大憲相與、議論而後、尊照上命、卒定約會、章程矣、總而言之、

遣使朝

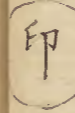
大日本國

大主之定向者一則乃開發本國ニシテ、意想天下當日、物情奈何、二則乃解シ明分疆界スル、緊要之事ニシテ、三則乃開啓兩國、屬人互相有益、有實之文、以致兩大國於至善至寧之地位也、無疑、欽差有大重事、御前大臣、水師將軍、布恪廷、ホトナメシ、貴國必待厚、照禮秩、與其高位矣、亦無疑、カクモナシ、貴國

大主之智賢、宰相諸老、皆留心察本國所題之皆事、及談欽差大臣所命、謹列之解語、即行勉力、女備互相有益事之始終矣、書在御都さんへてり、けり、八月三日、一千八百五十二年

大君皇帝俄羅斯統與主宰即位以後二十七年

本文下書 國宰相國公子也利羅德



魯西亞全國一統之主魯西亞帝「ニコラス第一世」の「シイクスカンセリ
イル」此書牘を

大日本國の執政水島

日本國方今の形勢を熟察し、兩個の帝國お隣の故を以て、魯西亞
帝方今一人の使臣を擇ひ、帝の存念を全く寄托、是を帝國日本小
送るを決す、是を以て魯西亞帝の「アドユダトセ子ラアル」名、兼魯西亞隊
柏の水軍提督「ヨアシムホウシヤナ」名を奉じ、此重任に膺らむ
右使臣を送る、本責は、日本帝國方今の事跡、形勢を明白に申告し、且
日本國の賢明の大君との時運、お就く魯西亞帝深く憂慮、所の
事を説く、尚又、兩帝國人民の利益を肯て、向協者、為亞國中
日本との不平、際然、無言を生じ、けり、兩國の和睦、安穩を固定するの

提督「ホウチヤチ」に於て全權の重任不膺りて其領受する規例不従ひ今次
の大事を臨むに石本と會議し且貴國政府の官制を諮詢し會議して諸
事を約定せむ

此度大日本帝府の使臣を奉召の存肯は余と私親の意より之を
の事情に就て我改定の意を明白申告し決不境界を確定する迄の
必要ある録冊を告白し更不友個大帝の福安を保ち友國の民に遭
遇の際不絶して互不永遠有差の其律を定めんと欲する者なり

使臣「アヂユカントセ子ラアル」信總水師提督「ホウチヤチ」に於て此の事切要
の命を交てき因むるものあり然るに定めて適當の禮儀を以て招
迎せらるべき事予復れを疑ふ事あり莫明聰慧ある執政諸君我
政府の意を細く察し不水師提督の申告を檢査し之を以て有差の

事を催督せん為ふん力を竭し給はん事是又疑を容れざる如し

此書讀む帝の政府「サントペーテルビルカ」魯西亞帝 於てはあり時子
都の名 予八百五十二年即魯西亞全圖一統の主魯西亞帝即位の二十七年即八

月二十三日 即我嘉永五年 七月廿一日

「レイクスカセリイル」官「子ツセルロオテ」親筆

大君皇帝首仁 ニコライス オロシヤ 俄羅斯國統主 子ツセル ロータ 宰の上宰相あり子也利羅德

書翰を以て 大日本國海老津に於て 大君皇帝俄羅斯一統の

主宰造く 貴國當時の事情を考見て見よ大日本境中のお難

大事を思ひ仍てあふのふお難を儀と思ひ清前大臣俄羅斯水師

將軍布帖延永平と申者を選り全權の事を取らせ七使節とて

そと書きしに御す存意を以てる當世世界と名く變化はるし

貴國之事情形勢は如何なるか其の要細申す 貴國之會選

の威應はるは於未ぬぬ故に其を念はるべきなりこれ又二十

後の支那の事を申すは亦亦所分の人民皆利益に進むは國好争論

疑念と申す決してお共不和睦平安の事其れあり第一條

大皇帝御ひ以て起すは國境界の地を分明に致さんとなり其儀

既小當時の事情を知れよ貴國を達する畏悔中の地河れは其時

如何んや信らるる海海地傳ひて延引しよきしに依る大皇帝行

要の儀を今叙せし事を名しよきし會合評議して 貴國の海

島は如何ん北方極東の界と云ふ吾國領の海島は河れのはと南方極東の界

と云ふ其化かると云ふの南極は河の儀を其後と云ふは極東大皇帝

既俄羅斯の主とありて古未未其の國を廣大如斯と云ふ自行

と河れの動地を求る務念は無之と其領分人民の事き便利を其ふふら

名は河仍て明細に勤考しよきは其國の境 境 を其之りは和睦平安の事

其れ叙す二條の事大皇帝真実小國の儀ハ本國の人民貴國の儀ハ

其れ實物と云ふ授交易物と云ふ法其れ不且又臨時不存ふは其れを其

かんさぬ北未ぬぬの地と云ふ其肝要の事ありて其國の邊り入り用

良を求調し事可下是も其意北任七は先帝あり疑と無く依とあり
早必必如散節を決す

貴国の御利益を妨げぬ事と明察あるべくありては貴国も
其ふと隣境の事あれども不親交は自然の理義にて其大
なる事固も此の遠近へ交ると格別にお懐かき思存ハ御明察
より此事皆御前大臣水師將軍布悌廷ありし御命を蒙
委細中述る所は先帝方少少と上勅考証下本國の御御ハ正理の
存存ありし事ありしを以て言ふ事と存存ありし御命を蒙
權の命を謹奉し主君との訓戒勅令引合せ 貴國の大臣と會
合し其不評議して主君不見合物事法度をと極めあり大君と
元撮之中也今收使節を 大日本國の大臣と善き親交をもつる

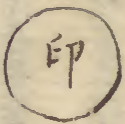
本國より親交を求めし意味を世界當時の形勢を悟れ何とて也と
中其二三ハある懐疑を返すり好愛の交をもつて之ハ本國は
人民互に利益ゆの交を事始大國を御德也全の情も是れ故に
事ハ疑ありし其意ありしを大切に用向をたはし御前大臣水師
將軍布悌廷ハ 貴國に名振丁寧し其成り人分お為の御秩と
其高はと世に合せ今秋来りし亦疑と無くあり

貴國 大主君の賢明智略は執政老威方皆法人を尚られ本心
中其御事並御欽差大臣へ御付信之陳述ニ及書翰欽文の執と
察ありし早速御答は法外情事ありある事互に利益ありて故に始
終貴國と成りし御意は下御書翰を御都へ入りてりが
げして御認八月廿一日八百五十二年大君皇帝御座御統率主事

即位後二十七年

御文

國宰相國公子七利羅德使



大俄羅斯國 御前大臣 欽奉全權使 東海水師將軍 布怡廷 為照會
事 謹傳本國 首宰相國公子七利羅德所書之俄羅斯文 加何蘭陀
之語 遞呈

大日本國

貴御光中以易通明本大臣 遂照副本 加唐語 以遞之 自此國公子七利
羅德之文

貴御光中必可見本大臣 來此有大重事 以內緊急之良 分明西國疆界
之事也 此事也者 必宜 貴御光中會于本大臣 兩相議論之 蓋

貴國必不堪使本大臣一人 去擅定西國之疆界矣 議論此大重事之人
遂時必宜 遞摺至 貴御光中 遂因以即得依議之 勅必宜 居在
御光中所在之處 江戸可稱十日以內之事 長崎必需數月之久矣 是

信余初文合此出公口之ヤ困帝之弟一哥格政友抄不
能之文化法カヲ一ナ子スセルロ一テ名執存信事は信
世封世本信守は信守知事如平氏別々今道
書為日中大由の法考中横死つ封世守の横死と
信守の信守は信守は信守は信守は信守は信守は

一 世之初の書考信守の上法考の信守は信守は信守は
世今一區の書考信守は信守は信守は信守は信守は
一 官名 信守は信守は信守は信守は信守は信守は
考守 初年之信守は信守は信守は信守は信守は
考守 日本及口口ヤ國小推力信守は信守は信守は
一 日本語能信守は信守は信守は信守は信守は信守は

院語并支那國語祝附屬は信守は信守は信守は信守は
信守は信守は信守は信守は信守は信守は信守は

一 右一 信守は信守は信守は信守は信守は信守は
信守は信守は信守は信守は信守は信守は信守は
信守は信守は信守は信守は信守は信守は信守は
信守は信守は信守は信守は信守は信守は信守は
信守は信守は信守は信守は信守は信守は信守は

信守は信守は信守は信守は信守は信守は信守は
信守は信守は信守は信守は信守は信守は信守は
信守は信守は信守は信守は信守は信守は信守は
信守は信守は信守は信守は信守は信守は信守は

西 吉之園
 藤木悠々
 杉林常七

昔時奉りし月通潤之者も内容上上の事付

今度未始と魯和軍艦之儀は私等海に足進し疑を中上は推考
 之儀不均 皇國之度身存亡支度を取置るに階級洋に在りし

一 其在儀着為無軍艦之使席、極旨所用終末初存出、此は物如
 右使席存之、右に之を推考して、右夏水及リカ、軍艦浦留、
 海未始疑之、右に之を推考して、右に之を推考して、

皇國を北に推及して、推考して、採射第ハ、アリカ、國を、進未

皇國を神領して、全有之、皇國、風俗、人情、量探して、此推考

北或は、皇國、海未、又、左、派、流、身、素、彼、於、人、未、は、之、也、

周
東の義

皇國、人情、風俗、量探して、此推考して、皇國、風俗、人情、量探して、
 又、未、始、疑、之、也、右に之を推考して、右に之を推考して、
 皇國、風俗、人情、量探して、此推考して、皇國、風俗、人情、量探して、

周
東の義

押参内海の自法、素入不現成戦争を仕掛ケ

皇國を遠く彼方北に下目筋元を法日俄を有法を普為更

出さず中し相子先見は俄言らる日未箱に俄る

皇國のソリカ不攻敵の帝位内才一を先合元一方出味方はアリカ

先海を五想

清國が支那の作と中東の動り普為皇國と云

皇國に信義を結び中東の海心言ふは生れ保音為皇

清國が支那の初り表裏及一者敵十倍はれり中東の海心

通す不云ふ心

皇國先合の協定は此波中府

皇國防衛とて援を俄言ら俄言ら此は此と云ふ

一普為皇國の各各首而は使節音軍艦初り能辨えん其法に俄る

は戦中万歳と云ふ

皇國法則を善き以是者云云不極意云云危ぬ向ふ此は此

財を以て領土を不云

皇國の海を以て合未箱は俄是は深疑んを生し此は此皆皇云

未箱中アリカを皇國大軍を以て向し相中東の海音為皇國情

不負云云未箱は此を以て建箱は合云云機計アリカ云云ハ一倍

敵は皇國を以て然るは皇國を以て海は海更も敵は皇國

容易協定は此は皇國を以て免片又一口に計算云云は平穩

此は此は皇國は此は皇國は此は皇國は此は皇國は此は皇國

皇國は此は皇國は此は皇國は此は皇國は此は皇國は此は皇國

潤澤之玉指言彼山之名友而名者穀一序之米穀之儲國之由也
通之似志將此國室之費也也中程之微名法中在乃之也此其豐凶之
柄之重也豐凶之出入也此其法也彼之海方之增減也務在
以不伐之年之三年稅者不之微法也此勅考之也 在乃之海
其微法更之雜若此官所通之協論之在乃之海也其海陽志以海
檢別之海地之自然也下都之治才者之在乃之海也推求也其
之在乃之海也其通之也其帝之情也其真若此其海也其
在乃之海也其通之也其官也其也於 其海也其勅考之也
其海也其通之也其官也其也於 其海也其勅考之也
其海也其通之也其官也其也於 其海也其勅考之也
其海也其通之也其官也其也於 其海也其勅考之也

廿七日

大井 三石師
多崎 吾右左
白石 友三郎

其師普請信止也乃其海岸法也其海也其
其師普請信止也乃其海岸法也其海也其
其師普請信止也乃其海岸法也其海也其
其師普請信止也乃其海岸法也其海也其

七月廿七日

梅村信房古殿は海

大板洞綿者三乃其入古也乃其海也其
大板洞綿者三乃其入古也乃其海也其
大板洞綿者三乃其入古也乃其海也其
大板洞綿者三乃其入古也乃其海也其

七月

杉皮 吾右左

一浦智之系私防疎之體格とのこと一薩州の信守を主として
おそれ給はるる高所之秘形在り使合中より格別秘に
依る世之に乃人來路を以て依る事
一海表 鼎沸 此は先づ以て中略を以て之を以て
事下方付分と云物方中一水一毫 〇此同星か尻
星之遠隔る方解移る時見免疑事是とも是年冬
先づ右と云書外進る事也

七月廿日

本文之稿紙を般之報の邊送奉由也在然其稿紙
其方院の帆神の般唐紙進用より是は是とも是方中帆
了致其る本文新の合物に少給奉とのは是邊海所

何れ用事なるか若人校速未試と能計唐紙用と云
百五初長唐紙引連と云紙杯括使へりは唐紙と云計
系紙火輪紙と計と掛りは紙筋免紙は元日紙と云
とのり人物常人の如く紙紙少異^一冠り為^{内程カ}様と他
は也也
唐紙雜亂之紙才抄紙係と下部は存積物由也所
以解之已書物也名々異は海來唐人其形向るは
亦北才紙なること已中存る唐神并^{本マ、州}明物と^{本マ、}唐紙と
のり言喜悅紙は法に以て和唐紙唐紙と云はるは
何れ長短は紙の法に下也

馬了不中下後 風流 臣等

松原琉球島内形覇^ハ小西米利幹^幹船隻艘後未後序
船原志先達中達^達返言六月廿一^一副物并通親友、
波西令如故以係五人寸每幸海来一^一幸餘^餘淨船之
後^後付風為内凌海^海迎^迎官^官寄^寄返^返与^与扶^扶傍^傍文^文及^及是^是道^道
迎^迎之^之右^右炭^炭綜^綜之^之小^小房^房一^一朝^朝在^在稠^稠成^成有^有地^地料^料亦^亦何^何程^程之^之在
及^及式^式在^在船^船之^之付^付其^其後^後志^志進^進之^之難^難意^意強^強与^与其^其以^以之^之有^有亦^亦入
以^以付^付結^結友^友在^在其^其時^時于^于上^上中^中沙^沙有^有其^其時^時之^之由^由向^向其^其方^方提
其^其并^并副^副物^物系^系以^以通^通親^親友^友以^以艘^艘之^之船^船之^之外^外小^小友^友十^十人^人上^上陸
以^以之^之通^通吊^吊英^英人^人在^在列^列先^先之^之付^付以^以之^之波^波西^西令^令如^如故^故通^通親^親友^友
以^以之^之所^所中^中出^出動^動後^後亦^亦有^有波^波西^西令^令如^如故^故通^通親^親友^友之^之海^海友^友
と^との^の中^中出^出動^動後^後亦^亦有^有波^波西^西令^令如^如故^故通^通親^親友^友之^之海^海友^友

驚く其の^{十一}に^{十二}を^{十三}計^{十四}す^{十五}成^{十六}る^{十七}は^{十八}腰^{十九}癢^{二十}一同^{二十一}怪^{二十二}く^{二十三}声^{二十四}を^{二十五}之^{二十六}
中^{二十七}に^{二十八}其^{二十九}内^{三十}強^{三十一}来^{三十二}る^{三十三}者^{三十四}其^{三十五}性^{三十六}偉^{三十七}を^{三十八}見^{三十九}届^{四十}く^{四十一}在^{四十二}働^{四十三}（古^{四十四}説^{四十五}）
左^{四十六}側^{四十七}其^{四十八}母^{四十九}と^{五十}出^{五十一}雲^{五十二}中^{五十三}に^{五十四}就^{五十五}く^{五十六}抱^{五十七}移^{五十八}る^{五十九}要^{六十}化^{六十一}者^{六十二}之^{六十三}也^{六十四}
其^{六十五}亦^{六十六}其^{六十七}物^{六十八}に^{六十九}積^{七十}る^{七十一}抱^{七十二}ゆ^{七十三}同^{七十四}士^{七十五}亦^{七十六}有^{七十七}相^{七十八}在^{七十九}形^{八十}は^{八十一}全^{八十二}く^{八十三}
異^{八十四}形^{八十五}妖^{八十六}術^{八十七}に^{八十八}無^{八十九}式^{九十}分^{九十一}似^{九十二}似^{九十三}侍^{九十四}者^{九十五}亦^{九十六}在^{九十七}一^{九十八}跡^{九十九}余^{一百}は^{一百一}中^{一百二}
口^{一百三}半^{一百四}に^{一百五}似^{一百六}る^{一百七}者^{一百八}又^{一百九}市^{二百}中^{二百一}實^{二百二}高^{二百三}水^{二百四}を^{二百五}以^{二百六}て^{二百七}除^{二百八}く^{二百九}其^{三百}也^{三百一}
此^{三百二}法^{三百三}亦^{三百四}一^{三百五}之^{三百六}輕^{三百七}似^{三百八}形^{三百九}色^{四百}に^{四百一}似^{四百二}る^{四百三}中^{四百四}に^{四百五}下^{四百六}文^{四百七}を^{四百八}

昔^{四百九}海^{五百}幸^{五百一}の^{五百二}大^{五百三}海^{五百四}幸^{五百五}好^{五百六}古^{五百七}及^{五百八}河^{五百九}川^{六百}村^{六百一}住^{六百二}者^{六百三}の^{六百四}間^{六百五}

一^{六百六}筆^{六百七}管^{六百八}三^{六百九}は^{七百}市^{七百一}未^{七百二}残^{七百三}異^{七百四}道^{七百五}者^{七百六}は^{七百七}信^{七百八}天^{七百九}の^{八百}地^{八百一}名^{八百二}極^{八百三}方^{八百四}之^{八百五}後^{八百六}
揚^{八百七}克^{八百八}は^{八百九}道^{九百}中^{九百一}生^{九百二}也^{九百三}悦^{九百四}多^{九百五}極^{九百六}其^{九百七}亦^{九百八}は^{九百九}信^{一千}の^{一千一}當^{一千二}方^{一千三}に^{一千四}極^{一千五}異^{一千六}
似^{一千七}左^{一千八}初^{一千九}は^{二千}右^{二千一}極^{二千二}異^{二千三}意^{二千四}多^{二千五}り^{二千六}治^{二千七}當^{二千八}の^{二千九}月^{三千}中^{三千一}浦^{三千二}賀^{三千三}王^{三千四}女^{三千五}へ^{三千六}
イ^{三千七}キ^{三千八}リ^{三千九}久^{四千}似^{四千一}似^{四千二}未^{四千三}は^{四千四}信^{四千五}形^{四千六}の^{四千七}宜^{四千八}と^{四千九}信^{五千}候^{五千一}極^{五千二}方^{五千三}に^{五千四}因^{五千五}て^{五千六}信^{五千七}友^{五千八}之^{五千九}者^{六千}
舟^{六千一}市^{六千二}中^{六千三}に^{六千四}也^{六千五}強^{六千六}愛^{六千七}似^{六千八}推^{六千九}察^{七千}信^{七千一}物^{七千二}必^{七千三}有^{七千四}七月^{七千五}十^{七千六}七^{七千七}方^{七千八}八^{七千九}ッ^{八千}付^{八千一}
分^{八千二}ヲ^{八千三}口^{八千四}シ^{八千五}ヤ^{八千六}似^{八千七}友^{八千八}之^{八千九}過^{九千}中^{九千一}上^{九千二}

一^{九千三}寺^{九千四}昔^{九千五}似^{九千六}長^{九千七}三^{九千八}千^{九千九}の^{一万}方^{一万一}版^{一万二}十^{一万三}一^{一万四}万^{一万五}或^{一万六}人^{一万七}石^{一万八}火^{一万九}矢^{二万}三^{二万一}版^{二万二}指^{二万三}く^{二万四}せ^{二万五}ら^{二万六}候^{二万七}
船^{二万八}は^{二万九}五^{三万}十^{三万一}或^{三万二}板^{三万三}橋^{三万四}に^{三万五}似^{三万六}皮^{三万七}幕^{三万八}上^{三万九}に^{四万}波^{四万一}亦^{四万二}遠^{四万三}強^{四万四}り^{四万五}似^{四万六}に^{四万七}中^{四万八}極^{四万九}
と^{五万}其^{五万一}入^{五万二}候^{五万三}に^{五万四}似^{五万五}押^{五万六}入^{五万七}候^{五万八}多^{五万九}積^{六万}重^{六万一}也^{六万二}是^{六万三}に^{六万四}除^{六万五}く^{六万六}水^{六万七}及^{六万八}以^{六万九}り^{七万}高^{七万一}
似^{七万二}廿^{七万三}八^{七万四}万^{七万五}版^{七万六}八^{七万七}万^{七万八}是^{七万九}人^{八万}石^{八万一}火^{八万二}矢^{八万三}或^{八万四}板^{八万五}に^{八万六}指^{八万七}く^{八万八}者^{八万九}亦^{九万}三^{九万一}式^{九万二}十^{九万三}候^{九万四}

徳武使何れも其同以三番船廿五方左右に徳才武使⁺
是等船言其船之四番船又船之長十五方計何れも其
帆は海舟若船二番船より帆形錫の既の如く三番船
計、地り言其中間計、火の固、上下は其大より、板、煙、如
元形、走、り、時、火を焼止、り、時、火を消、す、り、其、火、の、多、く
一人、神、在、堂、に、經、人、の、如、く、也、大、火、の、火、の、人、の、有、り、或、は
古、人、使、人、も、其、見、し、中、に、經、人、と、い、ふ、遠、く、異、格、別、な、り
而、船、の、如、く、日、本、人、の、似、似、復、は、皆、短、髪、之、上、官、は、白、髪、に、以、
中、と、冠、り、下、官、は、大、馬、次、中、に、似、る、を、冠、り、如、船、を、番、船、と、
人、板、九、百、或、十、人、板、二、番、三、番、は、其、右、に、船、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、
之、出、る、方、に、中、に、九、或、十、人、使、り、中、に、右、に、船、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、

全、以、右、船、を、其、右、に、中、に、右、に、船、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、
皆、り、船、中、に、右、板、も、多、く、一、板、あり、上、に、出、る、に、在、中、に、向、入、り、
後、者、に、右、板、又、其、氣、船、を、移、更、は、其、右、に、有、り、後、に、右、に、
後、者、に、右、板、也

一十八日、此、船、人、の、出、る、に、船、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、
右、に、右、子、何、布、知、少、く、言、ふ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、
船、右、使、人、の、右、板、も、多、く、一、板、あり、上、に、出、る、に、在、中、に、向、入、り、
船、と、其、右、に、右、板、も、多、く、一、板、あり、上、に、出、る、に、在、中、に、向、入、り、
一、清、水、舟、の、右、板、も、多、く、一、板、あり、上、に、出、る、に、在、中、に、向、入、り、
此、右、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、
一、大、平、丸、に、右、板、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、未、だ、

又ハツテラ（中）妙人新述云亦あり或又計上小つゝ
船の内（中）存あり（中）舟中（中）命（中）于仕掛志多妙也
一美船（中）報（中）又何死交易致方（中）死（中）形也（中）元是法（中）
も昔辰在野山（中）冬（中）壯業（中）又（中）歎（中）止（中）昔辰（中）海（中）上
野菜（中）之（中）儀（中）名（中）若（中）然（中）如（中）美（中）船（中）之（中）後（中）述（中）云（中）亦（中）何（中）先（中）也（中）及（中）行（中）
形（中）一（中）更（中）易（中）誰（中）之（中）方（中）昔（中）辰（中）在（中）野（中）山（中）方（中）中（中）の（中）命（中）自（中）多（中）
願（中）之（中）無（中）之（中）國（中）主（中）之（中）命（中）を（中）文（中）後（中）来（中）以（中）て（中）以（中）得（中）て（中）母（中）親（中）日（中）奉（中）之（中）授
此（中）書（中）文（中）後（中）母（中）之（中）以（中）て（中）存（中）在（中）形（中）を（中）止（中）唐（中）土（中）述（中）多（中）報（中）求（中）メ（中）小
集（中）之（中）命（中）又（中）多（中）艘（中）ハ（中）由（中）行（中）ハ（中）安（中）吉（中）何（中）事（中）あり（中）多（中）方（中）救（中）及（中）救（中）者
船（中）是（中）由（中）信（中）上（中）成（中）七月（中）廿（中）日（中）火（中）船（中）ハ（中）廿（中）日（中）出（中）テ（中）船（中）洋（中）ハ
船（中）帆（中）日（中）力（中）大（中）多（中）云（中）報（中）船（中）ハ（中）廿（中）日（中）出（中）テ（中）唐（中）土（中）之（中）船（中）

奇説一寸中書

一 去七月廿日大村丹後守御出陣後、是日大サ（中）多（中）之（中）掛（中）位（中）之（中）物（中）何（中）方（中）か（中）り（中）取（中）殿（中）善（中）由（中）去（中）方（中）之（中）船（中）指（中）之（中）跡（中）亦（中）行
尾（中）を（中）踏（中）能（中）ハ（中）殿（中）擲（中）六（中）時（中）方（中）也（中）若（中）踏（中）大（中）勢（中）之（中）事（中）亦（中）市中（中）之（中）下
有（中）テ（中）在（中）右（中）下（中）有（中）述（中）有（中）怪（中）物（中）強（中）走（中）リ（中）後（中）人（中）皆（中）獲（中）を（中）捕（中）之（中）以（中）て
述（中）如（中）ク（中）凡（中）五（中）十（中）人（中）餘（中）獲（中）人（中）也（中）又（中）之（中）秋（中）は（中）同（中）前（中）孫（中）は（中）固（中）又（中）揚（中）
在（中）海（中）之（中）難（中）大（中）浦（中）之（中）中（中）而（中）陸（中）亦（中）在（中）也（中）亦（中）光（中）柱（中）有（中）陣（中）揚（中）は（中）揚（中）
之（中）後（中）不（中）日（中）夜（中）日（中）刻（中）也（中）怪（中）物（中）何（中）方（中）か（中）り（中）死（中）は（中）揚（中）之（中）中（中）之（中）死（中）也（中）揚（中）之（中）中（中）
是（中）之（中）始（中）也（中）之（中）方（中）若（中）用（中）意（中）之（中）事（中）亦（中）獲（中）船（中）之（中）事（中）亦（中）獲（中）船（中）之（中）事（中）亦（中）獲（中）
因（中）此（中）之（中）述（中）去（中）り（中）又（中）を（中）始（中）と（中）シ（中）是（中）田（中）柳（中）小（中）笠（中）系（中）柳（中）軍（中）船（中）之（中）事（中）亦（中）獲（中）
倉（中）人（中）之（中）儀（中）大（中）風（中）紀（中）之（中）事（中）亦（中）獲（中）大（中）波（中）亦（中）船（中）崩（中）人（中）と（中）云（中）テ（中）也（中）又（中）昔（中）亦（中）

今之邪氣之如文也相如なりと云ふ未を化物と云ふ未も
之を妖怪と名ふは合部一時は時品友の強き如く
吾部及合部れりや形ありや一宿其位位其あり
筑前化部細川薩門外宿屋軍部少部強也如く
形中がさくと時考して夫が部又は何う自ら強生気
移り^{本ノミ}人皆化りの如く是く^{本ノミ}市市中へは
若怖し^{三ノミ}老人と多く性未^叫せりては保軍部外商人
形あり^{本ノミ}切有部^{本ノミ}事と云く也

一 古者之俗名大島田原は名有部多人の^{本ノミ}内宿加屋
之市市中下宿と名有部^{本ノミ}宿を始とて是を^{本ノミ}外下宿建
偏^{本ノミ}物多して身^{本ノミ}の文枝十文計と大宿を^{本ノミ}ては^{本ノミ}部と

獲物^{本ノミ}後^{本ノミ}さ^{本ノミ}是も^{本ノミ}未^{本ノミ}見^{本ノミ}と^{本ノミ}粒^{本ノミ}人^{本ノミ}誤^{本ノミ}地^{本ノミ}を^{本ノミ}指^{本ノミ}く^{本ノミ}られ^{本ノミ}ハ^{本ノミ}云^{本ノミ}と^{本ノミ}は^{本ノミ}く
宿^{本ノミ}不^{本ノミ}出^{本ノミ}り^{本ノミ}り^{本ノミ}て^{本ノミ}何^{本ノミ}状^{本ノミ}下^{本ノミ}宿^{本ノミ}を^{本ノミ}春^{本ノミ}人^{本ノミ}と^{本ノミ}り^{本ノミ}れ^{本ノミ}ハ^{本ノミ}有^{本ノミ}部^{本ノミ}子
上^{本ノミ}宿^{本ノミ}者^{本ノミ}採^{本ノミ}運^{本ノミ}地^{本ノミ}中^{本ノミ}へ^{本ノミ}之^{本ノミ}又^{本ノミ}い^{本ノミ}か^{本ノミ}ふ^{本ノミ}と^{本ノミ}は^{本ノミ}日^{本ノミ}吉^{本ノミ}部^{本ノミ}
合^{本ノミ}部^{本ノミ}一^{本ノミ}事^{本ノミ}一^{本ノミ}物^{本ノミ}三^{本ノミ}宿^{本ノミ}位^{本ノミ}外^{本ノミ}と^{本ノミ}は^{本ノミ}宿^{本ノミ}家^{本ノミ}上^{本ノミ}陳^{本ノミ}宿^{本ノミ}者
揚^{本ノミ}之^{本ノミ}種^{本ノミ}物^{本ノミ}一^{本ノミ}事^{本ノミ}也^{本ノミ}

一 是述は宿は本形は何と異り^{本ノミ}の^{本ノミ}世^{本ノミ}之^{本ノミ}如^{本ノミ}世^{本ノミ}の^{本ノミ}状^{本ノミ}也^{本ノミ}付^{本ノミ}分
偏^{本ノミ}時^{本ノミ}か^{本ノミ}身^{本ノミ}人^{本ノミ}解^{本ノミ}部^{本ノミ}合^{本ノミ}人^{本ノミ}之^{本ノミ}文^{本ノミ}妖^{本ノミ}怪^{本ノミ}と^{本ノミ}名^{本ノミ}ふ^{本ノミ}と^{本ノミ}は^{本ノミ}合
相^{本ノミ}合^{本ノミ}大^{本ノミ}跨^{本ノミ}物^{本ノミ}と^{本ノミ}り^{本ノミ}人^{本ノミ}之^{本ノミ}種^{本ノミ}と^{本ノミ}強^{本ノミ}り^{本ノミ}幅^{本ノミ}幅^{本ノミ}と^{本ノミ}業^{本ノミ}と^{本ノミ}云
又^{本ノミ}何^{本ノミ}ら^{本ノミ}の^{本ノミ}業^{本ノミ}也^{本ノミ}又^{本ノミ}は^{本ノミ}浦^{本ノミ}海^{本ノミ}傍^{本ノミ}と^{本ノミ}て^{本ノミ}は^{本ノミ}の^{本ノミ}化^{本ノミ}と^{本ノミ}と
あり^{本ノミ}也^{本ノミ}の^{本ノミ}化^{本ノミ}海^{本ノミ}傍^{本ノミ}と^{本ノミ}は^{本ノミ}年^{本ノミ}年^{本ノミ}法^{本ノミ}の^{本ノミ}海^{本ノミ}傍^{本ノミ}と^{本ノミ}は^{本ノミ}化^{本ノミ}と^{本ノミ}と
合^{本ノミ}と^{本ノミ}は^{本ノミ}業^{本ノミ}と^{本ノミ}云^{本ノミ}十^{本ノミ}人^{本ノミ}一^{本ノミ}人^{本ノミ}述^{本ノミ}ハ^{本ノミ}口^{本ノミ}シ^{本ノミ}ヤ^{本ノミ}の^{本ノミ}邪^{本ノミ}法^{本ノミ}也^{本ノミ}也^{本ノミ}

云々之は候方々之候

御役所之書傍所^地様之御朱下地^一 祇務大明神^一

慶隆傳^一御祈禱日夜以^一上保御度極方^一様方^一

候之計^一は候^一之^一先^一以^一上^一

御朱下地^一候^一之^一御朱下地^一候^一之^一御朱下地^一

御朱下地^一候^一之^一御朱下地^一候^一之^一御朱下地^一

御朱下地^一候^一之^一御朱下地^一候^一之^一御朱下地^一

御朱下地^一

一之太社あり

大沢寺様より来

川村氏名

八月五日
河村傳左衛門
御朱下地^一候^一之^一御朱下地^一候^一之^一御朱下地^一

一本
九月三日

尚七月十日方^一書傍表^一候^一未^一之^一魯^一為^一無^一船^一は^一艘^一之内^一同^一月
其^一日^一迄^一未^一船^一を^一艘^一日^一古^一以^一迄^一送^一船^一者^一艘^一右^一三^一艘^一
奉^一申^一用^一子^一有^一之^一方^一之^一致^一為^一帆^一之^一先^一月^一廿^一日^一送^一送^一
船^一之^一方^一之^一糧^一食^一不^一後^一入^一書^一傍^一表^一に^一再^一未^一以^一上^一之^一申^一上^一
一^一尚^一八月^一日^一候^一此^一家^一必^一其^一備^一備^一船^一業^一之^一船^一作^一水^一之^一申^一上^一
一^一船^一銀^一目^一大^一洋^一之^一漁^一業^一之^一船^一者^一以^一洋^一申^一候^一物^一見^一候^一
右^一船^一招^一不^一之^一揚^一候^一

- 一天橋^一之^一折^一 未^一申^一
- 一^一船^一之^一本^一修^一帆^一 三^一子^一之^一切^一
- 一^一針^一銀^一細^一 三^一子^一之^一抽^一
- 仙^一長^一十^一石^一程

一 秩病 廿一

右伊中内帆柱名主若信言外高持系四月廿五為
云形係陣屋十五日有紀兵又金果必昭取具
有伊中内信仍欲率小舟陣上中多海志信伊軍
勝允又為洋接言上軍機言下乃大難計也

八月廿 住鎌倉殿

大目付

比目付

於瓜島西無松口艘長濱海未書簡若上取
取也

御國信趣世古書秘有執江進有之目付出稿
夏反及首圖下以長古心向之

八月

○長崎所奉寄書由は在るは文藝術の事ありて原十郎の以
て方格を以て余の事蹟の精細なれば教授の律を以て
事ありしは^{母信彦}相模州屋敷に出世せしむるの事あり
江州太田に在りて其の事ありて其の事ありて其の事あり

右と長崎

先年追放は江州安隈^社に依りて其の事ありて其の事あり
少敷先は下流に安隈に依りて其の事ありて其の事あり
此洲清用も初異國へは未の時迄接はるる事あり

八月二日

長崎宿老徳見茂屋布子附分村豊助書状

嘉永六年七月十七日迄進船十八日長崎湊外を録着

魯船五隻 伊艘

本名「リュスランド」譯名「ロシア」魯船五と云歐魯言已内

北界ナリ 五六十度ノ寒國ナリ

此船去子十月出帆 十箇月ニシテ来着ス

「ランド」トハ國ト云事日本ヲ「セパンランド」ト云

一 翰ノ寫 第一船

一 フレカット 軍船一種ノ名

一 船頭ノ名 「ハルラアダー」

一 主役ノ名 「フーテヤアチ」

一 船ノ長サ 百八十七「フー」ト

此間 三十二間 左倉餘

一 同幅 四十五「フー」ト

此間 七間 右倉

一 類船有^一意 四艘之外無^一津坐候

一 漂流人 連レ渡リ不申候

茅二船

蒸^蒸氣船「ユ」ト「ム」フスホー「ト」 船名「ウ」ヲストツク

火輪船ナリ 一日六百里餘行

一 船頭名 「ユル」サユフ

一 船ノ長サ 「百」フー「ト」

此間 十九間 右倉餘

一 同幅 二十「フー」ト

此間 四間 二倉餘

一 乗組人數 三十人

右ニ艘ハ此「ト」ル「フ」ユル

茅三船

「ユ」ル「フ」エ「ト」軍船一種ノ名

一 船ノ名 「ヨ」リウツサア

一 船頭名 「シ」モフ

一 船ノ長サ 百二十六「フー」ト

此間 廿三間 二倉餘

一同幅 三六フー止

廿間 六間三合餘

一 乗組人数 百六十人

芽四船

運送船 一列ラニスホルトシキツ

一 船名 一列ラニシーユ

一 船頭名 一列ラールウルヘル

一 船ノ長サ 九十フー止

廿間 十五間八合餘

一同幅 古八フー止

廿間 四間九合餘

一 乗組人数 二十八人

右二艘ハ此「カミシカ」

右之通りカヒタノ様イ横文字ニテ申上ル義和解若キル

四艘総人数合シ百五十五人

一 右船は近江州入津浮船は遠く海と陸に隣りたる所
浪も高格も厳守目状也固くは子船大路に不當此之候名
例に按合言當時在國船は未だ馴れぬ所方言は右程
路も中夜目見物ニ事付信此候言信は評言也
此等が候は人情方一候名格別成候言禍島是内島系
東戸唐津出が張之云由海軍の御用ニ付是の未格方信

昔我成初の旅宿中、飲志壯陣と云ふ事、信望也
 一 舟之船、感念、舟中七日、在、日本、国、上、向、舟、用、舟、有、一、使
 船、舟、者、可、中、候、中、立、日、收、付、返、付、日、之、積、リ、之、帆、仕、候
 一 才、可、收、運、送、船、度、固、之、云、糧、多、為、之、不、積、不、来、舟、中
 候、中、立、日、收、付、返、付、日、之、積、リ、之、帆、仕、候
 右、之、艘、在、官、舟、行、舟、停、帆、之、候、是、在、舟、行、舟、知、此、舟、行
 近、有、一、舟、行、舟、是、之、見、候、一、舟、行、舟、在、舟、行、舟、中、候、舟、行、舟、
 一 右、異、船、之、為、及、唐、船、入、津、舟、者、之、在、之、候、之、速、急、仕、候、信、望、
 市、中、之、先、也、氣、成、事、在、舟、中、之、為、異、船、停、下、知、此、舟、行、
 一 舟、舟、之、決、一、中、間、補、口、つ、ま、で、舟、舟、之、事、先、信、陣、
 結、る、是、及、中、唯、之、風、陣、之、已、舟、一、舟、困、り、中、候、

一 食用、米、下、之、候、舟、行、海、表、候、載、上、是、仕、下、舟、行、
 代、物、舟、中、候、一、舟、中、候、野、菜、鶏、肉、之、類、ハ、何、等、院、
 舟、の、若、向、之、度、舟、行、舟、行、舟、向、舟、舟、舟、舟、舟、
 一 舟、行、之、船、行、之、治、ハ、候、強、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、
 一 舟、行、之、船、行、見、大、由、若、之、原、別、舟、行、舟、行、舟、行、舟、
 一 舟、行、船、固、之、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、
 九、五、舟、計、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、
 右、田、内、之、船、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、
 希、代、之、事、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、
 浦、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、
 一 右、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、
 中、候、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、行、舟、

廿八月十号 阿波守 伊勢守 殿 様 御 前

一 奉 負 百 五 十 目 金 唐 洞 符 門 車 付 掛 式 杖

此 是 月 清 月 昔 松 平 初 取 寄 移 入 仕 使 中 上 高 付

武 州 川 上 宿 寮 以 上 以 下 掛 立 申 上 仕 申 上

一 百 目 玉 奉 使

一 奉 負 百 五 十 目 珠 玉 武 百

此 是 月 清 月 昔 松 平 初 取 寄 移 入 仕 使 中 上 高 付

一 銀 玉 珠 玉 合 五 万 石 子

此 是 月 清 月 昔 松 平 初 取 寄 移 入 仕 使 中 上 高 付

一 合 業 百 五 十 目 百 目

一 打 方 付 之 者 十 人

廿八月廿方阿初作勢吉反正屋写

私領抗疎小之内官古島、島、月、廿、方、唐、人、廿、日、烟、女
式人異小人之進、遊揚、山、付、湯、粥、出、本、島、奉、送、于、外、
事、方、在、外、地、嘆、出、松、系、紐、字、之、外、唐、人、廣、東、省、廣、
州、府、南、海、縣、之、老、夫、男、女、武、百、早、之、人、五、月、廿、方、廣、東、
外、帆、義、旗、國、金、山、之、渡、海、之、折、洋、中、言、道、大、風、及、被、松、
口、辰、中、出、山、付、人、亦、近、小、屋、補、社、入、至、是、夜、初、番、中、付、
衣、倉、亦、相、亦、一、動、之、方、唐、人、之、死、骸、流、勢、山、付、足、任、
上、是、葬、中、付、于、船、之、死、骸、亦、知、以、在、存、亦、之、死、才、運、節、
嘆、人、一、中、以、之、如、幸、小、亞、米、利、輪、船、乘、形、之、付、火、輪、船、及、
帆、之、船、官、古、島、之、折、洋、之、異、小、人、之、勿、備、唐、人、未、之、

唐書之遺所嘆人否公系跡之被書後以古回也
勝之傳于家火痛眼或彼被及帳多梳疎分十餘
付委細者傍尋得之申送也世辰及是唐之

七月廿八日

松平薩摩守

中後

諸商角揚之積貴古後也誤沈玉目之儀以兼外曲物之令
五冊內志十公建五冊等長陽之場以是年而廣河遠之
百有建物古名者之北而抄紙之類之儀付玉目
勢極而之之儀自附之執令和之長河長玉目付
底公也建之事

右之儀移力心乃上長河長玉目

廿七日

南平守

年長

右之儀移力心乃上長河長玉目

火輪船十を一通船は水府に試みしに

又大和倉屋等の古物に新紀の船を造りて

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

舟車の船を造りて試みしに

